

新プログラム開講

「観光教育」の意義解説

静岡文化芸術大 両校教員が授業

県立大(静岡市駿河区)と静岡文化芸術大(浜松市中区)が2019年度から新プログラム「観光教育」を開講したことを受け、県立大で4日、初の交流イベントが行われた。両校の教員が、受講する1年生に授業の内容や意義を解説した。

プログラムで県立大は「観光とマネジメント」をテーマに授業を展開。この日は同大経営情報学部の北上真一特任教授が、訪日外国人数の推移や各国1人当たりの消費額などのデータを示した。

その上で「マーケットとして、どの国をターゲットにするかなどに研究の余地がある」とプログラムの意義を強調した。

一方、静岡文化芸術大は「観光と文明」を主題に開講する。同大文化・芸術研究センターの青木健教授は、文化が異なる外国人をどう迎えるかが課題になっていると指摘し、授業方針について説明した。

両校は今後、教員の交換を行い、授業の交流も予定している。(社会部・石岡美来)

「観光教育」の内容や意義について教員が説明した交流イベントは4日午前、静岡市駿河区の県立大

